DOI：10.2490/jjrmc.62.751

Jpn J Rehabil Med 2025；62：751

第 66 回日本神経学会学術大会

日本リハビリテーション医学会広報委員会

2025 年 5 月 21 日から 24 日にかけて，第 66 回日本神経学会学術大会が大阪国際会議場を中心に開催されました．現地参加が約 5,800 名，WEB 視聴も含めると約 9,200 名の参加があったそうです．「神経学が拓く未来社会（Neurology Pioneering the Future Society）」をテーマに掲げ，大会長には大阪大学の望月秀樹教授，副会長には近畿大学の永井義隆教授を迎えました．大阪での開催は 6 年ぶりでした．

会期中は，AI 技術の活用や神経診察の継承，神経・筋難病における治療薬開発の進展など，未来社会を見据えた多様なシンポジウムが開催されました．特別企画としては，緒方洪庵の適塾を紹介するプログラムや，Charcot 生誕 200 年を記念した展示・講演も行われ，歴史と未来をつなぐ内容が参加者の関心を集めました．

また，今回の大会では「ホットトピックス」セッションが注目を集め，最新の神経疾患研究が多数紹介されました．たとえば，てんかん診療の新展開，自己免疫性脳炎に関する国際共同研究，TDP-43 蛋白異常症の病態解明，アミロイドニューロパチー診療の進歩，さらには神経変性疾患の Prodromal ステージ（前駆期）における画像診断の役割など，多岐にわたるテーマが活発に討議されました．

学術大会中に開催された記者会見の様子

大阪・関西万博との連動もあり，国内外からの参加者は大阪の食や笑いの文化も満喫しながら，活発な学術交流が繰り広げられていました．

第 98 回日本整形外科学会学術総会

東京科学大学病院リハビリテーション科　酒井朋子

2025 年 5 月 22 日から 25 日まで，東京国際フォーラムにて第 98 回日本整形外科学会学術総会（会長：北海道大学整形外科 岩崎倫政教授）が開催されました．東京での現地開催は 2010 年以来 15 年ぶりで，会場は大いに賑わっておりました．

今回のテーマは「Lofty Ambition―高邁なる大志を胸に―」．骨粗鬆症に関連するセッションを中心に聴講し，齋藤貴徳先生（関西医科大学）による講演では脊椎アラインメントの重要性が強調されていました．続く宮腰尚久先生（秋田大学）のランチョンセミナーでは，ロコモや背筋トレーニングの重要性が紹介され，猫背傾向のある自分自身にも深く響きました．

本学術総会では，大学対抗の野球・サッカーに加え，今回はスウェーデン発祥の「モルック」も導入され，大学や一般病院の参加者が世代を問わず親睦を深めておりました．このような自由で温かな交流も本学会の魅力のひとつだと感じました．

会場風景

モルック大会リーグ＆トーナメント表